

## 容器は小さくても大事を引起こす!

2011年3月



危険性廃棄物が入ったペール缶を除染している間に事故が起こった。一人の運転員がメンテナンス作業の間ペール缶に抜出した少量のプロセス廃棄物を中和していた。その中に水と激しく反応する金属ナトリウムが少量含まれていた。手順ではペール缶中の廃棄物に乾燥メタノールを加え、加温し、6-7時間反応させることになっていた。運転員はその手順に従い、反応時間終了後彼はペール缶から液状廃棄物を抜き出した(が実際は若干残っていた)。彼がペール缶を空にしようとした時、ペール缶から残っていたものがこぼれ雨水と接触し、発熱反応が起り運転員は負傷した。

写真には廃棄前に貯蔵された危険な廃棄物のペール缶やドラム缶、その他小型容器類を示している。比較的少量で貯められている危険物や廃棄物でも、そこには重大な危険が存在していることを忘れないことが重要である。特に、小型容器は、(危険)物質のそばで一例えば容器に追加して廃棄物を加えたり、ある種の中和・除染・その他の化学的操作などの一作業をしている人達にとって大変危険なものとなりうるだろう。更に、危険な廃棄物の貯蔵条件一例えば、高温による(重合、分解等の)危険あるいは低温による(凍結の)危険の有無は?一を考慮することも重要である。

### 何故起ったのか?

廃棄物用ペール缶には、メンテナンス作業から出た2-3インチのスラッジが入っているのが見つかったが、ラベルは貼ってなかった。運転員は廃棄物について他の運転員に尋ね、通常の方法で廃棄するように言われた。しかし、スラッジには固体の層があり、ナトリウムをメタノールと望むように接触させ、反応させることができなかった。手順書では反応を確実に完了させるために中和した溶液を混合することを運転員に要求していなかった。

### あなたにできること?

- 全ての容器、特にプロセス廃棄物を入れた容器にラベルを付けること。
- 小さな容器でも大きな危険を起し得ることを覚えておくこと
- 不明な物質は何であるかを知るためにテストすること。そうすれば廃棄物の安全な廃棄方法を作成できる。
- メンテナンス手順には、廃棄物の安全標示と安全な廃棄に関する指示を含むことを確認すること。
- 通常の見出し作業中、異常なこと(例えばスラッジまたは予想していない固形物など)は何でも上司に報告すること

**小さな容器でも危険な爆発を引き起こせる!**